

« パパとママが僕たちを望んだとき、健康に生まれることが保障されていた。 »



サラセミアの予防は重要である。

サラセミアとヘモグロビン疾患の血液検査について医師に尋ねましょう。

ミクロチテミアの遺伝子を持つ両親からは、25%の確率でサラセミア(地中海性貧血)にかかった子どもが生まれる可能性がある。この場合、生まれてくる子どもの症状は重く、生まれて数ヶ月も経たないうちから集中治療が必要で、定期的に輸血をしなければならない。

ミクロチテミアとは何か。

ミクロチテミアとは、赤血球の遺伝子の異常である。地中海性貧血患者の健康な状態をいう。つまり、健康に害を及ぼさない程度の軽い貧血を引き起こす可能性を持っている人がその対象になる。

ミクロチテミアの状態を早めに知ることが大切である。

- A) 子どもが地中海性貧血をもって生まれてくるのを防ぐため。
- B) 自らの健康をよりよい状態に保つため。

ミクロチテミアは世界中に流布している。

世界人口の20人に1人が多種にわたる地中海貧血の一種をもっている。

ミクロチテミア病持ちの人は、以下の方法によってサラセミアにかかった子どもの誕生を防ぐことができる。

1. ミクロチテミア病持ちではないパートナーを選んだ場合。ミクロチテミア持ちの人とそうではない人との間に生まれてくる子どもは、正常に生まれてくる場合とミクロチテミア病を持ってうまれてくる場合と両方あるが、いずれにしても健康である。
2. ミクロチテミア病持ちのパートナーを選んだ場合。A) 子どもをつくらない。B) 妊娠初期に、子どもが病気にかかっていないか胎児の診断をする。病気が確認された場合、この段階では妊娠を中絶するか方法はない。

インフォメーション: Centro di Studi delle Microcitemie di Roma, Via Galla Placidia 28/30, TEL. +39-06-43.94.642/3 www.blod.info

ANMI ONLUS
Centro di Studi delle
Microcitemie di Roma



Regione
Lazio

